店舗画像からの注意の解放

○白柳 洋俊¹・和田 裕一²

(¹東北大学大学院 工学研究科・²東北大学大学院 情報科学研究科)

キーワード：店舗ファサード，注意の解放，ドットプロブ課題

Attentional disengagement from shop facade stimuli

SHIRAYANAGI Hiroto¹ and WADA Yuichi²

(¹Graduate School of Engineering, Tohoku Univ., ²Graduate School of Information Sciences, Tohoku Univ.)

Key words: shop facade, disengagement, dot-probe task

目 的

注意の偏りの問題を扱う研究の一つに，感情刺激に対する注意解放の遅れを調べる研究がある (Koster et al., 2008)。このような研究の多くは，ネガティブな感情価を強く伴う刺激，例えば社会的脅威画像や脅威語を刺激として用いてきた。

一方，街を歩いている際に花屋の店先に目を奪われたりショウウィンドウ越しに感じるブティックの高級感に見とれてしまうように，われわれの身近にあるポジティブな感情価を持つ対象もまた，見る者の注意を強く惹きつけることがある。実際，街なかの魅力的な店舗について見とれてしまったという経験は誰しもあろう。では，どのような感情価を持つ店舗がわれわれの注意定位に影響を及ぼすのだろうか。

そこで本研究では，商業地の店舗ファサードを対象に，店舗種類ごとの感情価の違いに応じて注意の解放の遅れの差異が生じるかを検証した。さらに刺激の提示時間を操作することで，注意解放の遅れの時間的変遷についても検討した。

方 法

参加者：学生 10 名 (男性 8 名，女性 2 名) が参加した。

提示刺激：平野 (2000) の実験より，物理的特徴の量と種類

Figure 1. 提示刺激の一例と実験手順

により分類された 4 種類の店舗写真を提示刺激として使用した (Fig. 1(a))。これらの店舗は，印象評価の結果から，「心理的距離 (親近感)」及び「美・品格」によるイメージ平面に対応した異なる感情価を持つことが確認されている。具体的には，八百屋の野菜のように，店先に店舗サービスを直観的に理解できる「直観情報」を多く発信する「直観型店舗」は心理的距離が近く，高級ブティックのように，店舗が発信する情報の量が少ない「抑制型店舗」は心理的距離が遠く，同時に美・品格が高い傾向を持つ。一方，金券ショップのように，ポスターなどの文字による「論理情報」を多く発信する「論理型店舗」は美・品格が低い傾向を持つ。また，無特徴な「中性店舗」は，実験操作におけるベースラインである。
手続き：LCD 中央に注視点「+」を 500ms 提示後，注視点の左右いずれかに刺激を 200ms もしくは 800ms 提示した。刺激を消失後，直ちに左右のいずれかにプロブを提示し，プ

ロブの位置を可能な限り速く対応するキーを押して回答する課題を実施し，その反応時間を計測した (Fig. 1(b))。試行は，プロブが提示刺激と同じ位置に提示され，手がかりが有効となる有効条件と，反対の位置に提示される非有効条件によりランダムに構成され，総試行は 120 試行であった。

結 果

判断課題で正答した平均反応時間 $\pm 3SD$ 以上を外れ値として分析した。次いで，非有効条件を対象に，中性刺激をベースラインとし，各提示刺激との差分を効果量として算出した (Fig. 2)。提示刺激 $\times$ 提示時間の 2 要因分散分析を行った結果，交互作用が有意となり ($F(2, 9) = 3.91, p < .05$)，下位検定の結果，提示刺激の単純主効果が，提示時間 200ms については有意傾向 ($F(2, 9) = 2.99, p = .064$)，提示時間 800ms については有意であった ($F(2, 9) = 7.0, p < .01$)。

Figure 2. 実験結果

考 察

提示時間 200ms では，抑制型店舗で注意の解放が遅れが，直観型，論理型店舗では注意の解放が早まる傾向が窺える。抑制型店舗の画像は，他の店舗に比べて商品や看板と言った情報が存在しておらず，このことが抑制型店舗の物理的な顕著性を相対的に高め，注意解放の遅れが生じたのではないかと推察される。

一方，提示時間 800ms では，直観型店舗に注意の解放の遅れが生じる一方，抑制型店舗は注意の解放が早まった。これには店舗がもつ感情価の関与が考えられる。つまり，この段階では刺激の意味処理が進行し，直観型店舗がもつポジティブな感情価が注意をより惹きつけたことで，本条件における注意の解放が遅れたと考えられる。

引用文献

- E.Koster, G.Crombez, B.Verschuere and J.De Houwer (2008). Selective attention to threat in the dot probe paradigm: differentiating vigilance and difficulty to disengage, *Behaviour Research and Therapy*, **42**, 1183-1192.
平野勝也 (2000). 街路の雰囲気を探る 街並メッセージ論という見方, *IATSS Review*, **28** (4), 306-313.